

Edulution

令和6年度千葉県教育庁教育振興部

学習指導課ICT教育推進室発行

GIGAスクール通信 vol.03 (R6.5.29)

教育 (Education) × 進化 (Evolution) の造語
「ICT」を効果的に活用することで、
教育の次なるステップを目指しましょう。

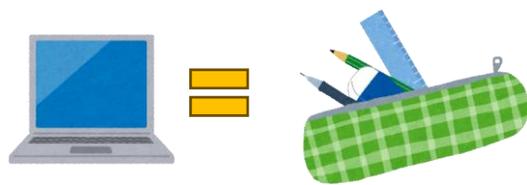


※県教育委員会ホームページのICT教育のバナーにアクセスしてください。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/giga/jouhoukeikaku.html>

ICT教育(GIGAスクール第2期)の最新事情を確認しよう 武藤久慶初等中等教育局教育課程課長の5/10EDIXでの講演資料から

今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所
で ICT の活用が日常のものとなっています。

出典：荻生田文部科学大臣メッセージ
(令和元年12月)



新しいものが「追加される」というよりも、世の中では当たり前だ
が学校では「足りなかった」ICTを取り入れ、学校でも「世の中に
追いつく」と捉えたの方がより正しいと思います。

出典：前文部科学省高谷担当課長「教育とICT online」(R4.6)

家族みんなが茶の間に集まり、その時の流行や定番のテレ
ビ番組をみながら団欒をしたり、次の日は子供たちが皆そ
の話題をしたりする時代は終わりました。

時間も場所も関係もなく、それぞれが興味ある情報や好
みのエンタメに個別にアクセスして楽しめるようになりました。

それは同時に、教師の強制や同調圧力で「みんな同じこと
を同じペースで行う」ことに対して、ますます疑問や抵抗が
出て来ることを意味します。

出典：東京大学准教授 木村龍太郎「クラウド環境の本質を
活かす学級・授業づくり」



伝統的授業は学ぶべき内容を教師が決めて児童生徒に届
け、即時対応を求める同期型コミュニケーションでした。子供
たちは教師が設定したタイミングに合わせるために、待たされ
たり、せかされたりしていました。

いきなりかかってきた電話と同じで、送り手は受け手の時間
を奪います。そもそも「1対35で電話をかける」行為には無理
がありましたが、学習規律で可能にしていたのです。

しかし、1人1台端末を使えば、そんな必要がないので同調圧
力もなくなり、のびやかに学べます。

出典：上智大学教授 奈須 正裕氏「個別最適な学びと協働
的な学び」





スライドを作成するという活動を行っている時、果たして子供たちは「調べる」という動詞を経験しているでしょうか。

情報を検索して貼り付けるだけの「集める」になっていないでしょうか。集めた情報のある視点から整理・分析して初めて調べたこととなります。

さらに、そこから自分事に引き寄せて考察して自分の意見や主張を述べたり、新たな問いが生まれてきたりしているなら、それは「調べる」を超えて、「深める」になっていると言えるでしょう。

出典：京都大学大学院教育学研究科准教授 石井英真氏「教育変革の時代の羅針盤」

通常授業でも様々な学習形態が同時に進行(複線化)



出典：日本教育新聞 2022年5月2日 11面記事 写真：東京学芸大学 高橋純
 ※本投稿に掲載中の写真は日本教育新聞社に掲載の許諾を得ています。
 ※写真内の画像・記事の著作権は日本教育新聞社に帰属します。無断転載はお断りいたします

ICT活用の好事例ではおなじみの愛知県春日井市の小学校で行われている授業の複線化の様子です。児童は落ち着きがなく、座ってられないのではなく、一斉に学んでいる児童、1人で学んでいる児童、友達と一緒に学んでいる児童と、授業が複線化されています。児童は自分の学びたい方法を選択して、課題解決に向かうことができます。

令和の日本型学校教育



港区教育委員会／デジタル港区教育史(公開資料)

一斉授業の方がふさわしい場面もありますが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」によって、「主体的・対話的な深い学び」を実践するためには、一斉授業では無理があります。

すべての子供たちの可能性を引き出すためには1人1台端末を活用した授業の複線化にぜひ取り組んでみてください。